

No.186

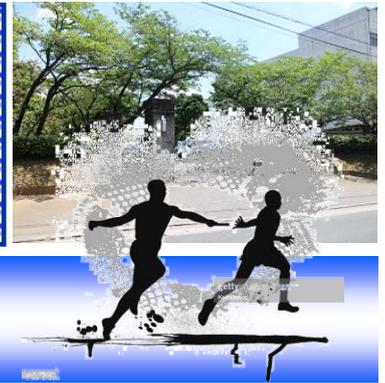
令和2年9月18日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



“青瞬”の一日

青瞬

青には青陵、青春の意味が含まれており、こんな時だからこそ1分1秒を大切にしようという思いが込められています！

生徒会通信「全力疾走」第5号で、今年度の体育祭のテーマである「青瞬」についてこう説明されていました。

思いもよらない新型コロナウイルス感染症拡大により、社会生活や経済活動にさまざまな制約がかかるようになって半年あまり。学校の教育活動も少なからず影響を受けてきました。

先々週行われた修学旅行についても、目的地や行程、期間等の大幅な見直しを余儀なくされました。感染に対する不安を抱えたままでの出発でしたが、全行程の交通手段である観光バスはもちろんのこと、行く先々で感染防止対策が十分なされていることを実感した旅行でもありました。旅行を終えて感じたことは「**正しく恐れる**」ことです。鈍感になってはいけませんが、過敏になり過ぎてはいけません。これまで行ってきた「マスクの着用」「手洗い・手指消毒・うがいの励行」「3密の回避」「ソーシャルディスタンスの保持」等の感染予防対策を継続させつつ、生徒たちの成長にとって欠かすことのできない教育活動は行っていくべきだと確認することができました。

そして昨日、「青瞬」をテーマにした第73回体育祭が開催されました。毎年思うことですが、よく考えますよね。生徒たちって。コロナ禍での体育祭にぴったりのテーマだと思います。

感染予防の観点から、修学旅行同様、内容も方法も時間も例年に比べ厳選された体育祭となりましたが、その教育的な効果は大でした。学年通信や多くのクラスで発行された学級通信に掲載された担任の先生や生徒たちの振り返りを読んでみても、それがよく伝わってきます。こんな状況下ですので、中止した学校もあるようですが、競技に取り組む生徒たちの真剣な表情

や態度、はじける笑顔等を目にするにつけ、「やってよかった」「やれてよかった」という思いを強くしました。「行事は子どもを育てる」ことを再認識した日でもありました。

閉会式の中でお話したように、体育祭は全校生徒が一堂に会することのできた今年度初めての行事でした。全校生徒が同じ時間と同じ空間を共有することのできる喜びを感じながら生徒たちの躍動する姿を見ていました。次の行事である青陵祭の、合唱コンは学年ごとに分散開催、有志のひろばはリモートで行うことが決定していますので、一堂に会するチャンスは、ひょっとしたらもうないのかもしれませんが。

昨日の生徒たちの姿は、3年生を中心として、いたるところで「青陵らしさ」を感じ取ることができました。大切なことはそれを継承していくことです。途切れさせてはなりません。画像や映像は、資料として見ることはできますが、その場の空気感や雰囲気は、その場に居合わせた者でなければわからないものです。ぜひとも「青陵らしさ」を継承していただきたいと思います。

当日まで準備・運営の中心となってくださった岡田先生をはじめとする体育部の先生がた、雅基先生をはじめとする特活部の先生がた、ほんとうにありがとうございました。さあ、次は青陵祭です。正しく恐れて教育的効果をMAXにしましょう。

